



地域で活躍する若手農業者に贈られる「矢野賞」を受賞

日笠 靖十郎さん (上田邑)

高校在学中にドイツに留学するなどして養豚への見識を深める。「津山黒豚」の生産から販売を行う家業に携わり、独自の飼育方法を実践。若手農業者が協力して地域課題に取り組む仕組み作りや、高校で食品加工を教える社会人講師など、地域の農業活動でも中心的役割を担っている。その功績が認められ、10月に県内で農業振興や農村の活性化に貢献する若手農業者に贈られる「矢野賞」を受賞した。39歳。

※矢野賞＝第一生命保険株式会社の創立者で、岡山県の農業教育に貢献した矢野恒太さん（岡山市出身）の業績を顕彰する矢野恒太記念会が設立した賞。今回の受賞は3人。



養豚経営に携わろうと思ったきっかけは？

16歳の時に留学したドイツで、牛や豚を飼う農家の手伝いをしました。毎月行われる直売で、お客さんがいろいろと話掛けてくれ、自分が生産したものへの評価が直接聞ける面白さを体験しました。その後、進学した東京の大学で自分と同じ農家出身の友人に囲まれて勉強する中で、農業の面白さや厳しさなど、さまざまな刺激を受け、養豚経営に携わりたいと思うようになりました。

養豚経営を始めて、苦労した思い出は？

環境に関する法律が見直され、ふん尿の処理方法を変える必要に迫られました。床に敷き詰めたもみ殻などにふん尿を吸着させて処理する昔ながらの環境に優しい方法を取り入れることにしました。衛生的な環境を作るため、もみ殻を敷き詰める高さや1頭当たりの飼育面積を変えるなど試行錯誤しました。「何事も経験することが大切」という父の考えから、改良した豚舎は、設計・基礎作り・建材の溶接など、すべて自分で行ったため、苦労の連続でした。

直売にこだわる理由は？

お客さんの顔が見えないインターネットでの販売はしていません。店に来られるお客さんからの味や品質などに対する反応を参考にして、より良いものを作るよう努力しています。その結果、おいしいものができるとう、お客さんは満足してくれます。そして、再び店を訪れたり、知り合いに教えたりしてくれ、輪が広がっていきます。店とお客さんが互いに喜べる関係を大切にしたいと思っています。

地域の若手農業者と取り組んでいきたいことは？

マルシェなど消費者と農業者が直接話すことができる直売の機会を増やしたいです。消費者の皆さんと一緒においしい農産物を作り、地域の農業を盛り上げていきたいです。



若手農業者が集まる会で意見交換をする日笠さん



刀剣女子という言葉を知っていますか？日本刀が好きな女の子のことです。好きな剣のことを推し剣と呼び、博物館や神社に名刀を見に行くことがブームになっています。現在、津山市では、市にゆかりのある名刀の写し刀を作っています。YouTubeで「津山刀剣」と検索して、再現の様子をご覧ください。(W)

当時の緊迫した情景が目の前に浮かび、校正作業を忘れて読んでしまった今回の歴史あらかると。写真の『国元日記』は本来なら装丁して保存されるはずが、藩の廃止によって作業されず、簡単に綴じたままの状態に残っているそうです。大きな歴史の流れの中の小さな1ページに諸行無常を感じました。(C)

ラグビーワールドカップでは、日本代表の活躍が注目を集めました。実は50年前にも、強豪を相手に接戦を演じた時代があったそうです。この時の理論が「接近・連続・展開」。これを聞いて、取材で使えそうな気がしました。「被写体に接近」「連続撮影」「角度を変えて展開」。一人つばやきながら撮影しています…。(二)



編集・発行
津山市総合企画部秘書広報室(市役所3階)
〒708-8501 岡山県津山市山北520

☎ 0868-32-2029
☎ 0868-32-2152
✉ kouhou@city.tsuyama.lg.jp

広報津山は、著作権保護のため再
生紙と植物性インキを使用して
います。読み終えた後はリサイクル
（資源）にご協力ください

☆津山市公式Instagram
https://www.instagram.com/tsuyama.city/

☆広報津山電子版
https://www.city.tsuyama.lg.jp/

☆津山市公式Facebook
https://www.facebook.com/city.tsuyamakouhou